

# まことと会便り

2022/10

みなさまいかがお過ごしでしょうか。

光圓寺境内の松が枯れてしまいました。

ここ数年、境内の植木のあれもこれも様子がおかしくなる事が続き、その都度植木屋さんにも見てもらっていましたが、植木屋さんも首をひねるばかりでこれといった対策もできないままでおりました。一番目立つところの松が枯れたものですから、お墓参りの方々もみなさん残念がって「良い松だったのに」と惜しんでくださいます。誠に残念です。

松は季節ごとに大きな変化のあるものではないので、常に変わらずそこにあるものでした。元気な姿の時にはこれといって手をかけるわけでもなく、「今日も美しいね」と声をかけてやることもありませんでした。いざ失ってしまったのはじめてそこにあった価値というものに気づくことです。

私たちの周りにはあって当たり前と想っているものやことがたくさんあります。人もそうです。しかしあって当たり前のものなどありはしないのかも知れません。それぞれに失い、別れが来るとき、それまでの日々に感謝の思いしかありません。

とはいえ、松の姿が無くなった後のことを思うと、頭を悩ませています。

## 行事予定



十月七日 ヨガの会

十月十九日 まこと会 念仏奉仕

午後一時半より三時まで

\*申込不要・どなたでもご参加いただけます  
\*雑巾を一枚お持ちください

十月二十五日 光圓寺 秋季永代経法要

二十六日 報恩講

講師 桑門真昭師

二十六日報恩講に午前、午後とも続けて  
お参りされる方にはおにぎり等の軽食を

ご準備します。

## 光圓寺 報恩講参りのお知らせ

例年通りに、各ご家庭への報恩講参りを左記の日程で参ります。今後変更の可能性もございますので、各ご家庭へのお知らせにて、再度ご確認ください。

十一月十七日 皆実地区

十一月十八日 楠那・日宇那地区

十一月二十一日 己斐地区

十一月二十四日 宇品地区

十一月二十五日 南観音中・西地区

十一月二十八日 南観音東地区

十二月八・九・十日 丹那地区

十二月十三日 本浦地区

十二月十五日 大河地区(北大河・旭町)

十二月十六日 大河地区(南大河・山城町)

十二月十八・十九日 打越地区

十二月二十日 吉島地区

新しくお参りをご希望の方はお寺までお問い合わせください。他の地区でもお参り致します。  
☎(082) 231-3400

悲しみあるがゆえによるこびあり

煩惱あるがゆえに菩提あり

伊藤 慧明

法語カレンダー十月のことば

人生は一度きりです。それだけに誰もがそれぞれの人生を楽しみ、喜びいっぱい、幸福な時間であることを追い求めながら、生きています。

しかしながら、私たちの幸福感は、ともすれば所有欲が満たされたときや他の人々との比較において受けとめられていることがあります。

そのような幸福感は、一旦は満たされたように感じるときもありながら、またすぐに新しい欲が生まれ、本当の意味で満たされることはありません。

お釈迦様は、そこには不変の安らぎはないと断じられ、むしろそのような在り方、生き方の根底に目を向けられたのでした。そして、「人生は苦なり」ということを明らかにされました。

どんなに若くても、豊かでも、地位が高くても、「老・病・死」という人生において避けることのできない問題は、私たちの人生に常にぴったり寄り添っているのです。私たちは、願ってもいない悲しみや寂しさ、苦しみに耐え続けて生きているのが現実です。

とはいえ、その悲しみや寂しさが念仏の教えに出遇える縁ともなります。阿弥陀さまは悩み、苦しむすべてのものをそのまま救い取ろうという誓い（本願）をもって、今この私にはたつき続けてくださっています。本当の安らぎとなり、抛りどころとなるのがお念仏——南無阿弥陀仏です。親鸞聖人は、法然聖人から「ただお念仏するばかりで、まちがいなく阿弥陀さまのお救いにあずかるのだよ」という教えを聞くことによつて、迷いの世界を乗り越えることができるとよるこびを得られました。

様々な社会情勢下においても、仏法に出遇い、確かな心の支えを持つことでやすらぎとよるこびを得た先人の方々がいらつしやいました。その方々のお取り次ぎがあつたからこそ、時を超え、時代を超えてこの教えが受け継がれてきたのです。

京都大学ウイルス研究所所長で熱心な念仏者であつた東昇教授は、「宗教のことばは時代を超えてひびき、科学のことばは、時代とともに変わる」と著されました。お釈迦様の説法ははるか二千五百年前で、親鸞聖人の書物は八百年も前に著されたものです。

しかし、そこに示される表現は、混迷を深める私たちのところに、いつも新鮮な息づかいをもって聞こえてきます。

